■今月の特選句

2022年6月



迷ひなき万緑を見よロダン像

渡部美香

ロダン像は「考える人」ですね。悩んでいるのだろうと、激励する句になった。くよくよしなさんな、万緑の力強い緑の覇気を見てごらんなさいと。



壺焼きの蓋を死守する馬鹿力

田村米生

蓋が取れないのは貝が抵抗しているからとは知らなんだ。「蓋を死守する」と褒めておいて「馬鹿力」で呆れてみせ、裏切り構成になっている。



バーコード外し退院山笑ふ

白井道義

コロナ禍の入院の無味乾燥が、バーコードに象徴されている。今の時代をうまく詠みこみ、「山笑ふ」に退院の解放感や 安堵感が凝縮されている。 **■今月の特選句** 2022年6月



いななきはファンファーレなり春の駒

日根野聖子

いななきは馬の言語であり歌声である。馬は春到来の喜びを 伝えているのだ。ファンファーレなりと言い切った思い切りの 良さに滑稽味がでた。



風止めばはらぺこになり鯉幟

森岡香代子

とても素直な擬人化の句である。擬人化は対象になりきってこ そできるものだが、この句の場合は、作者自身も空腹だった のかもしれないね。



踏みつぶす白いビル群霜柱

木村 浩

「踏みつぶす白いビル群」で、何事だろうと驚かせておいて、「霜柱」で種明かし。破壊欲求が満たされる快感と、ものを壊す罪悪感もちょっぴり。

■今月の秀逸句 (・・・七七をつけてみました)

薫風に逆らい孫の初ヒット
長井知則

・・打つた孫より爺が喜び

花々の食べ過ぎご注意蝶々さん
大林和代

・・蝶々さんのメタボ心配

枇杷の実のポポと灯されゐる夕べ 桑田愛子

・・・再生可能エネルギーだな

「皆元気か」と墓地のつくし 鈴木和枝

・・・俗世気遣ふ土筆が祖先

風船も描かれし顔も萎みをり 鈴鹿洋子

・・・息吹きこんで皺もきれいに

新聞に包まれポストに初蕨 石塚柚彩

・・・筍だけは入らないのよ

永き日の悟空は釈迦の手を出れぬ 小林英昭

・・・時間浪費で名は損悟空

よきことの「吉」の字蕗の薹の中 山本 賜

・・・草冠の下に隠れて

・・・芍薬さんにも聞いてあげなよ

つばめらの宙返り里帰りうれしくて
小笠原満喜恵

・・・羽で喜び自在に表現

北窓の開かぬままのミステリー 井口夏子

・・・その人の名はミス・テリーだな

着飾りし母号泣の卒業式 壽命秀次

・・・普段は見ない涙とよそゆき

・・・五月の闇にLEDを

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

柳絮とばししだれ柳を搔い潜る	相原共良
春の月この叢雲を吹きとばせ	相原共良
土付きの山独活レシピ添へられて	相原共良
嫁姑永久不滅蟻地獄	青木輝子
なめくじり跡消す修正液がない	青木輝子
賃上げの焼け石に水四月尽	青木輝子
春の夢短縮授業のために覚む	赤瀬川至安
禅寺の斎膳飾る目刺かな	赤瀬川至安
目借時腰痛治療電子音	赤瀬川至安
菊の御紋の靖国に散る桜かな	荒井 類
桜餅泣かずに注射できたらね	荒井 類
芽起しの弾雨ほしがる木々はなし	荒井 類
トンネルを抜ければそこは新緑ゾーン	井口夏子
船とバス乗り継ぎすいすい春の旅	井口夏子
春狂乱人が野獣に変るとき	池田亮二
新成人モンローウォークも十八から	池田亮二
春の夢通学電車に乗り遅れる	石塚柚彩
ひよろひよろと四年目も咲くカーネーション	石塚柚彩
騒がしき世相のように百千鳥	伊藤浩睦
呼子鳥野鳥会も知らなくて	伊藤浩睦
貌鳥や群れは美男と美女ばかり	伊藤浩睦
初燕人の住まない家一軒	稲沢進一
振り向けば空暗くなる春の泥	稲沢進一
叩かれて空暗くなる藪蚊かな	稲沢進一
パステルカラーがしやしやり出て立夏	稲葉純子
初夏やジョーロの水も迸り	稲葉純子
暑気払ひたつぷり七味ふりかけて	稲葉純子
緋鯉だけ隣家に休む鯉のぼり	井野ひろみ
燕の巣電車気にせず駅庇	井野ひろみ
こいのぼり揺らす四万十の五月晴	梅野光子
春暁の空水彩で描かれる	梅野光子
春の風あちらこちらの香をあつめ	梅野光子
梅雨入や印刷文字に濃淡が	遠藤真太郎
田植歌手を振り見送る霊柩車	遠藤真太郎
新緑に語るも涙トム・ドゥーリー	遠藤真太郎
公園の若葉ひらいて句碑を読む	大林和代
流木に休む亀たち日永かな	大林和代

小笠原満喜 新緑の精の在はせる天仰ぐ 東 小笠原満喜 どんなにひどいか誰に話さう春驟雨 蜘蛛の糸葉つぱ操る真犯人 岡田廣江 人間がストンと落つる春の闇 岡田廣江 討入のつもりが猫から返り討ち 北熊紀生 セレモニーネクタイ垂らし半ズボン 北熊紀生 豆と箸吾子との練習忘れまじ 北熊紀生 怪物に変身するぞ霜柱 木村 浩 すみませんいつもの口癖万愚節 金城正則 タンポポの絮吹いている母子かな 金城正則 鯉幟プカプカカープ首位なれや 金城正則 遠蛙ベートーベン派モーツァルト派 久我正明 亀鳴くや選挙結果の異常泣き 久我正明 坂登るヒーフハーフと亀が鳴く 久我正明 空泳ぐことを選んで鯉のぼり 工藤泰子 歩くたび踏みさうになる鼓草 工藤泰子 落椿つ五線譜に置くフェルマータ 工藤泰子 おじさんがちょうちょを肩に喫茶店 桑田愛子 椅子取りゲームは取られゲームに五月闇 桑田愛子 硝子戸を上る蟹股雨蛙 小泉和子 花合歓や目覚めの早き一軒家 小泉和子 滑らかなヨガの呼吸や茄子の花 小泉和子 山桜上を下への大騒ぎ 小林英昭 出がらしといはれ茶摘女おかんむり 小林英昭 農一途尻に敷かれて畑を打つ 壽命秀次 竹皮を脱ぐ乙女のやうにかな 壽命秀次 白井道義 まつさきに部室覗いて入学す 一頁二句の句集や春愁ふ 白井道義 本家より筍届く三回目 鈴鹿洋子 常備薬追加の追加リバテープ 鈴木和枝 プーチンさんよ緑黄色野菜お食べなさい 鈴木和枝 この筍は猪の食べ残し 高岡昌司 目を離した隙に筍ぐいとのび 高岡昌司 筍は天に向かつてまつすぐに 高岡昌司 髙田敏男 種俵ねずみが先に試食かな 近くより遠くの話蜃気楼 髙田敏男

髙田敏男

聞き流すうわさ彼是百千鳥

車でありついたくして虎が雨 高橋きのこ 乾杯はコロナビールでオンライン 竹下和宏 じめじめと傘も嫌がる女柄雨 竹下和宏 目高にもあるやロミオとジュリエット 竹下和宏 古里や像人が眠る桃の花 田中 勇 目合きする出来事春の夢のこと 田中 勇 目信時呪術にかかってしまつたか 田中 身 春の夢芥川賞を貴女にと 田中早苗 枝を知る唯一の国権雨に入る 田中早苗 校を知る唯一の国権雨に入る お本 宴 つばくるの咥えし花は青黄色 谷本 宴 眼鏡でも買いに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買いに行こうか夏近し 日本半生 今年竹奏ましげに見る爺 田村米生 今年竹奏ましげに見る爺 日村米生 今年竹奏ましばに見る爺 月城花風 薦の初音からかふ谷戸の風 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 常の手をじっと消毒啄木忌 土屋泰山 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 煙のぼりカーブとともに高く舞ひ とりざりにベラング飾りすみれ草 戸田節子 立夏セグウンベストを手離せず 坪田節子 むりといてベラング飾りすみれ草 戸田節子 もりざりにベランクがりすみれ草 戸田節子 とりざりにベランクがりすみれ草 坪田節子 をしざりにベランクがりすみれ草 坪田節子 をしざりにベラング節のすみれ草 坪田節子 をしざりにベランが高を多述く 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 乗田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 北山の川辺にひつたり余花は良か 長井知則 水中の横をトットト羽抜め 花岡直樹 発剤の山やボバイのカこぶ 花岡直樹 を育の機をトットト羽抜め 浜田でり 郷便配達飛脚なみです春の昼 郷田で映まとはすでの蛙よおやすみよ	瞑想か迷走なのか走り梅雨	高橋きのこ
応称はコロナビールでオンライン じめじめと傘も嫌がる女権雨	車てふツールなくして虎が雨	高橋きのこ
じめじめと傘も嫌がる女梅雨 竹下和宏 目高にもあるやロミオとジュリエット 竹下和宏 古里や偉人が眠る桃の花 田中 勇 ほっとする出来事春の夢のこと 田中 勇 目借時呪術にかかつてしまつたか 田中 現 春の夢芥川賞を貴女にと 田中早苗 核を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 校を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 ヴィーナスの上腕二頭筋風光る 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こかり夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こかり夏近し 谷本 宴 しおるのは物価血圧揚雲雀 田村米生 今年竹羨ましげに見る爺 田村米生 心地良き下手なピアノや北開く 月城花風 第の初音からから谷戸の風 月城花風 第の初音からから谷戸の風 月城花風 常の初音からから谷戸の風 月城花風 北屋泰山 たれ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 をじつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 理のぼりカーブとともに高く舞ひ 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 なりとのにペランダ節かすみれ草 坪田節子 なりとって、マンダ節がすみれ草 坪田節子 なりにペランダ節がすみれ草 坪田節子 なりにペランダ節がすみれ草 坪田節子 なりにペランダ節がすみれ草 坪田節子 なりたべういが歳ふ春の逝く 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝	ももいろのブランコそらまめハウス前	高橋きのこ
日高にもあるやロミオとジュリエット 古里や像人が眠る桃の花 田中 勇 目借時呪術にかかつてしまつたか 田中 勇 春の夢芥川賞を貴女にと 田中早苗 核を知る唯一の国梅雨に入る ガイーナスの上腕二頭筋風光る つばくろの咥えし花は青黄色 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 上がるのは物価血圧揚雲雀 今年竹養ましげに見る爺 心地良き下手なピアノや北陽く うら若き自画像くすむ春の燭 第の初音からから谷戸の風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 土丘秦和 世のぼりカーブとともに高く舞ひ とのとりにベランダ節のすみれ草 立夏とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やボバイのカこぶ そも園に樹 和緑の横をトット・羽抜鶏 郷田の様をトット・羽抜鶏 郷田の変楽のでき春の昼 終い日で、新田の場 の側の機をトット・羽抜鶏 派田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	乾杯はコロナビールでオンライン	竹下和宏
古里や像人が眠る桃の花 田中 勇 目信時呪術にかかつてしまつたか 田中 勇 春の夢芥川賞を貴女にと 田中早苗 枝を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 ヴィーナスの上腕二頭筋風光る 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 日本本 宴 上がるのは物価血圧揚雲雀 田村米生 今年竹羨ましげに見る爺 田村米生 心地良き下手なピアノや北開く 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 をばつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 建のぼりカーブとともに高く舞ひ 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 並夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 歌争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 母の中の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 母のの川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 をら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 を同葉飛脚なみです春の昼 浜田イツミ 豚便配達飛脚なみです春の昼	じめじめと傘も嫌がる女梅雨	竹下和宏
ほっとする出来事春の夢のこと 田中 勇 目借時呪術にかかつてしまったか 田中 勇 春の夢芥川賞を貴女にと 田中早苗 比トラーはピストル自殺天の川 田中早苗 核を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 ヴィーナスの上腕二頭筋風光る 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 日村米生 今年竹羨ましげに見る爺 田村米生 今年竹羨ましげに見る爺 田村米生 の地良き下手なピアノや北陽く 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 常が手をじっと消毒啄木忌 土屋泰山 をはつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ 坪田節子 とりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子 む夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 戦争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 採田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 採田正勝 年の花の青さと幼さと 長井知則 ルーカーのは、子に買ふカーネーション 採田正勝 年の花の青さと幼さと 長井知則 か子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やボバイのカこぶ 花岡直樹 新緑の山やボバイのカこぶ 花岡直樹 新緑の山やボバイのカこぶ 花岡直樹 新緑の山やボバイのカこぶ 花岡直樹	目高にもあるやロミオとジュリエット	竹下和宏
日借時呪術にかかつてしまったか 田中 早苗 とトラーはどストル自殺天の川 田中早苗 核を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 ガイーナスの上腕二頭筋風光る 谷本 宴 眼鏡でも買いに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買いに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買いに行こうか夏近し 日村米生 今年竹湊ましげに見る爺 田村米生 今年竹湊ましげに見る爺 日村米生 の地良き下手なピアノや北開く 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 霧の初音からかふ谷戸の風 月城花風 志れ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 志れ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 空じっと消毒啄木忌 土屋泰山 空につきりカープとともに高く舞ひ 坪田節子 とりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子 む夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 敬争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 平積みのベストセラーや街薄暑 飛田正勝 年前の日の母が子に買ふカーネーション 乗田正勝 失車の花の青さと幼さと 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やボパイの力こぶ 花岡直樹 和洋の側では産飛脚なみです春の昼 浜田イツミ 郷伊配達飛脚なみです春の昼	古里や偉人が眠る桃の花	田中 勇
をの夢芥川賞を貴女にと 日中早苗 とトラーはピストル自殺天の川 接を知る唯一の国梅雨に入る ガイーナスの上腕二頭筋風光る つばくろの咥えし花は青黄色 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し とがるのは物価血圧揚雲雀 今年竹羨ましげに見る爺 い地良き下手なピアノや北開く うら若き自画像くすむ春の燭 鳥の初音からかふ谷戸の風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 たばつゆの山葵まるごとはなに抜け 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ にづランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 花剛の横をトットト羽抜鶏 振田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	ほっとする出来事春の夢のこと	田中 勇
世中早苗 核を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 ヴィーナスの上腕二頭筋風光る つばくろの咥えし花は青黄色 最鏡でも買いに行こうか夏近し とがるのは物価血圧揚雲雀 今年竹羨ましげに見る爺 心地良き下手なピアノや北開く うら若き自画像くすむ春の燭 鳥の初音からかふ谷戸の風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ とりどりにベランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平趙節子 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき轍 新緑の山やポパイのカこぶ 花岡直樹 花野の横をトット・羽抜鶏 珠田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の星	目借時呪術にかかつてしまつたか	田中 勇
様を知る唯一の国梅雨に入る 田中早苗 ヴィーナスの上腕二頭筋風光る 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 谷本 宴 上がるのは物価血圧揚雲雀 田村米生 今年竹羨ましげに見る爺 田村米生 の地良き下手なピアノや北開く 月城花風 満の初音からかふ谷戸の風 月城花風 満の初音からかふ谷戸の風 月城花風 なぐ手をじっと消毒啄木忌 土屋泰山 たれ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 をはつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 埋のぼりカーブとともに高く舞ひ 坪田節子 かりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子 む夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 戦争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 毎の日の母が子に買ふカーネーション 乗田正勝 大車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花間直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	春の夢芥川賞を貴女にと	田中早苗
ヴィーナスの上腕二頭筋風光る つばくろの咥えし花は青黄色 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し とがるのは物価血圧掲雲雀 今年竹羨ましげに見る爺 い地良き下手なピアノや北開く うら若き自画像くすむ春の燭 湯の初音からかふ谷戸の風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 七屋泰山 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 鯉のぼりカーブとともに高く舞ひ とりどりにベランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手雕せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ そら豆に出番教えるビールかな 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼	ヒトラーはピストル自殺天の川	田中早苗
つばくろの咥えし花は青黄色 谷本 宴 眼鏡でも買ひに行こうか夏近し	核を知る唯一の国梅雨に入る	田中早苗
眼鏡でも買ひに行こうか夏近し 上がるのは物価血圧揚雲雀 今年竹羨ましげに見る命 心地良き下手なピアノや北開く うら若き自画像くすむ春の燭 月城花風 湾の初音からかふ谷戸の風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 七屋泰山 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ とりどりにベランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手離せず 昭争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 和発の側でとりいり取ります。 花の直樹 和発の世の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼 近の田の学がでに見い おおの世代の内により 日本の中では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	ヴィーナスの上腕二頭筋風光る	谷本 宴
上がるのは物価血圧揚雲雀 田村米生 今年竹羨ましげに見る爺 田村米生 心地良き下手なピアノや北開く 月城花風 うら若き自画像くすむ春の燭 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 土屋泰山 をおれているの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ 坪田節子 とりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 戦争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 をら豆に出番教えるビールかな 花面直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ	つばくろの咥えし花は青黄色	谷本 宴
今年竹羨ましげに見る爺 心地良き下手なピアノや北開く うら若き自画像くすむ春の燭 病の初音からかふ谷戸の風 稼ぐ手をじつと消毒啄木忌 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 七屋泰山 とばつゆの山葵まるごとはなに抜け 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ とりどりにベランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手雕せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 新緑の山やポパイのカこぶ 花岡直樹 をら豆に出番教えるビールかな 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼	眼鏡でも買ひに行こうか夏近し	谷本 宴
○・地良き下手なピアノや北開く うら若き自画像くすむ春の燭 「別城花風 「薦の初音からかふ谷戸の風 「稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 「売れ霜鏡を見ればおのが顔 「七屋泰山 だばつゆの山葵まるごとはなに抜け 「世田節子とりどりにベランダ飾りすみれ草 「中田節子 で夏とてダウンベストを手離せず 「戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 お縁の山やポパイの力こぶ でら豆に出番教えるビールかな 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼	上がるのは物価血圧揚雲雀	田村米生
うら若き自画像くすむ春の燭 月城花風 鶯の初音からかふ谷戸の風 月城花風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 土屋泰山 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ 坪田節子 とりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 戦争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 平積みのベストセラーや街薄暑 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 でら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	今年竹羨ましげに見る爺	田村米生
常の初音からかふ谷戸の風 稼ぐ手をじっと消毒啄木忌 たれ霜鏡を見ればおのが顔 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ とりどりにベランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイのカこぶ そら豆に出番教えるビールかな 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼	心地良き下手なピアノや北開く	月城花風
様が手をじっと消毒啄木忌 土屋泰山 忘れ霜鏡を見ればおのが顔 土屋泰山 そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ 上野節子 上野である 上野である 上野である 一変とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 来町正勝 来の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 和湯の山やポパイのカこぶ た阿直樹 花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹 でりさいけいろります。 花岡直樹 花岡直樹 でり立ていきなったでいかな 花岡直樹 花岡直樹 でり立ていきなったでいかな 花岡直樹 でり立ていきなったでいかな 花岡直樹 でり回していまます。 花岡直樹 でり回していままます。 花岡直樹 でり回していままます。 花岡直樹 でり回していままます。 花岡直樹 でり回していまままます。 花岡直樹 でり回していままます。 花岡直樹 でり回していままます。 でりままます。 花岡直樹 でり回していままます。 でりまままする。 花岡直樹 でり回していままます。 でりまままする。 花岡直樹 でり回していままます。 でりまままする。 花岡直樹 でりまままする。 でりまままする。 でりまままする。 でりまままする。 でりまままする。 でりまままする。 でりまままする。 でりまままする。 でりままままする。 でりまままままする。 でりまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	うら若き自画像くすむ春の燭	月城花風
忘れ霜鏡を見ればおのが顔	鶯の初音からかふ谷戸の風	月城花風
そばつゆの山葵まるごとはなに抜け 土屋泰山 鯉のぼりカープとともに高く舞ひ 坪田節子 とりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子 立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子 戦争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝 平積みのベストセラーや街薄暑 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	稼ぐ手をじっと消毒啄木忌	土屋泰山
鯉のぼりカープとともに高く舞ひ 坪田節子とりどりにベランダ飾りすみれ草 坪田節子立夏とてダウンベストを手離せず 坪田節子戦争とコロナが競ふ春の逝く 飛田正勝平積みのベストセラーや街薄暑 飛田正勝母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝矢車の花の青さと幼さと 長井知則北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹新緑の山やポパイのカこぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	忘れ霜鏡を見ればおのが顔	土屋泰山
とりどりにベランダ飾りすみれ草 立夏とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼	そばつゆの山葵まるごとはなに抜け	土屋泰山
立夏とてダウンベストを手離せず 戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 矢車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ そら豆に出番教えるビールかな 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼	鯉のぼりカープとともに高く舞ひ	坪田節子
戦争とコロナが競ふ春の逝く 平積みのベストセラーや街薄暑 母の日の母が子に買ふカーネーション 天車の花の青さと幼さと 北山の川辺にひつそり余花は良か 少子化で小さい緋鯉なき幟 新緑の山やポパイの力こぶ そら豆に出番教えるビールかな 砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼 飛田正勝 飛田正勝 で飛田正勝 で飛田正勝 を共知則 を井知則 ・ 花岡直樹 をで見るである。 ・ 花岡直樹	とりどりにベランダ飾りすみれ草	坪田節子
平積みのベストセラーや街薄暑 飛田正勝 母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 でら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	立夏とてダウンベストを手離せず	坪田節子
母の日の母が子に買ふカーネーション 飛田正勝 矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼	戦争とコロナが競ふ春の逝く	飛田正勝
矢車の花の青さと幼さと 長井知則 北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼 浜田イツミ	平積みのベストセラーや街薄暑	飛田正勝
北山の川辺にひつそり余花は良か 長井知則 少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼 浜田イツミ	母の日の母が子に買ふカーネーション	飛田正勝
少子化で小さい緋鯉なき幟 花岡直樹 新緑の山やポパイの力こぶ 花岡直樹 そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼 浜田イツミ	矢車の花の青さと幼さと	長井知則
新緑の山やポパイの力こぶ	北山の川辺にひつそり余花は良か	長井知則
そら豆に出番教えるビールかな 花岡直樹 砲弾の横をトットト羽抜鶏 浜田イツミ 郵便配達飛脚なみです春の昼 浜田イツミ	少子化で小さい緋鯉なき幟	花岡直樹
砲弾の横をトットト羽抜鶏 郵便配達飛脚なみです春の昼 浜田イツミ	新緑の山やポパイの力こぶ	花岡直樹
郵便配達飛脚なみです春の昼 浜田イツミ	そら豆に出番教えるビールかな	花岡直樹
	砲弾の横をトットト羽抜鶏	浜田イツミ
鳴きとほす夜の蛙よおやすみよ	郵便配達飛脚なみです春の昼	浜田イツミ
	鳴きとほす夜の蛙よおやすみよ	浜田イツミ

/

神亀の水掛け放題に亀鳴かす 久松久子 ペンギンの脱走したる帰雁どき 久松久子 パナマ帽粋に登場八木健氏 久松久子 その羽に命のきらめき春の蝿 日根野聖子 傍らに夏立つてゐる八十八夜 日根野聖子 勝利とも言えぬプーチン春愁 廣田弘子 老いし掌に乗せれば艶めく柿若葉 廣田弘子 恋の蝶もつれて一つになりにけり 廣田弘子 万愚節IQ高き人騙す 藤森荘吉 秘書室にまれな笑ひや万愚節 藤森荘吉 栄螺焼くその呟きを聞きながら 藤森荘吉 細川岩男 剪定に迷う初心者ミニ盆栽 葉桜や淡き緑も目の保養 細川岩男 息すれば新緑眩し咽るほど 細川岩男 プーチンの顔を睨みつ柏餅 南とんぼ 校正が煮詰まったならソーダ水 南とんぼ 柿若葉どれもお皿になりそうな 南とんぼ 修司忌に手にとる本は「書を捨てよ!」 峰崎成規 来客は子供の子供こどもの日 峰崎成規 軍事援助筍ならばいくらでも 峰崎成規 ステップを踏む子笑ふ子朝寝の子 椋本望生 猫の子の去つて胡坐の広さかな 椋本望生 プーチンは銃ゼレンスキーはチューリップ 椋本望生 ひやかせば買はせられたり苗木市 村松道夫 春耕や鍬ふるふ漢(おとこ)見当らず 村松道夫 亀鳴くやロシアに食はるるウクライナ 村松道夫 麦の穂に金のひげあり麦の秋 森岡香代子 一輪の薔薇にはじまるものがたり 森岡香代子 八木 健 もつたいないと丹念に粽解く 食通をむせさせてゐる麦こがし 八木 健 春宵の価値ルーブルはお断り 八木 健 走り茶を淹れる昭和の急須かな 八塚一青 天秤にかけて右手のキャベツかな 八塚一青 ひとりぶん持続可能な扇子かな 八塚一青 子どもの日指のピストル撃ち合ふて 柳 紅生 根っからの悪人はなし蕨採り 柳 紅生 静脈は動脈のやう玉の汗 柳 紅生

/

やどかりの借家暮らしの能天気

立ち枯れてしまわぬようにソーダ水

ハイカーのざわつく所に小判草

公園を独り占めする子猫かな

無重力体験蚕豆畑にて

赤は赤ピンクはピンクに香る薔薇

バラ色と芍薬色のメイクして

静かさに剪定鋏の響く音

いい匂いミカンの花の咲く小路

一輪の飾らぬがよしカーネーション

蚕豆は繭にくるまる蛹のやう

鯉のぼり居場所知らせる子居のぼり

待ち合わせ場所へとつづくツツジ道

夏隣野外ステージのフラダンス

少年のロマンは褪せず武具飾る

日に出でて光り具合を春の蝿

噴水の辺りが赤いブラシの木

わくらばや新芽に手を振り風に乗り

退院を待っていたよと筍飯

ウクライナどこ吹く風の柿若葉

石鎚の声聞き揺るる若楓

引力に勝てず乳房も藤房も

豊太閤ほどな欲なし青瓢(ふくべ)

黙食に弱音口つく夏座敷

外つ国荒ぶ大地や夏まひる

ひたすらに人々祈る聖母月

嵐が丘の子羊たちに夏兆す さくらさくら父母よ恩師よ初恋よ

春筍やブルドーザーにちよん切られ

戦争孤児死語になれずと多喜二の忌

柳村光寬

柳村光寬

柳村光寛

山内 更

山内 更

山内 更

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山田真佐子

山田真佐子

山田真佐子

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子 吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子